

執筆者紹介

研究発表

堀川 暢子 Horikawa Nobuko

(ワシントン大学 アジア言語文学学部日本文学 博士課程)

研究分野は日本古典文学。博士論文のテーマは、近世比丘尼御所における漢詩の研究。ワシントン大学入学以前にはポートランド州立大学で現代日本文学を専攻し、小川未明(1882-1961)の作品に見られる新ロマン主義的なヒューマニズムについて修士論文を発表。

木村 迪子 Kimura Michiko

(日本学術振興会 特別研究員 (PD))

早稲田大学第一文学部を卒業後、同大学院修士課程を経てお茶の水女子大学博士後期課程に進学、2018年3月に「浅井了意と仏教」により同大博士号(人文学)を取得。研究分野は近世文学。特に現在は近世前期における仏書とその出版に関心を持ち、その解明に取り組んでいる。主要論文は「浅井了意『密厳上人行状記』について」(『近世文藝』101号、2015年)、「浅井了意作『戒殺物語・放生物語』について」(『国文学研究』186号、2018年)、「浅井了意仏書考」(『近世文藝』110号、2019年)他。

金 慧珍 Kim Haejin

(東京大学 大学院人文社会系研究科 日本文化研究専攻 博士課程)

韓国の西京大学日本語学科を卒業後、韓国外国語大学大学院修士課程を修了。その後、東京大学大学院に進学、現在は博士課程に在籍。研究分野は近世文学。浅井了意の仮名草子における翻案方法について仏書との関わりを手がかりに研究している。

主要論文は『『伽婢子』の異界譚—「伊勢兵庫仙境に到る」の翻案方法をめぐって—』(『東京大学国文学論集』12号、2017年)。

Carbune Maria カルブネ マリア

(ハイデルベルク大学 日本学研究所 博士後期課程)

ブカレスト大学で日本文化やドイツ文化を専攻した後、テュービンゲン大学日本学研究所で『浦島太郎における文学的なモチーフの変容』という修士論文を発表。現在はユディット アロカイ教授の指導の下、明治期の御歌所という宮内省の和歌派の成立と活動を、文学的かつ政治的な視点から研究。御歌所の活動の中でも、特に御製の添削・公表や、歌集の編纂、また歌会始の開催に焦点を当てて博士論文を執筆する。

Edwin Michielse ミヒールセン エドウィン

(トロント大学 東アジア研究科 博士後期課程)

オランダのライデン大学の日本語日本文化研究科で学士と修士を取得。プロレタリア文学について研究を進めており、大正後期から昭和初期にかけて東アジアのプロレタリア文学と国際連帯という内容で博士論文を執筆している。博士論文は、「五月一日の国際労働祭」、「国際語エスペラント」、「産児制限」、「反戦主義」という世界のプロレタリア文学運動を最も国際化した四つのテーマによって構成される。

Giuseppe Strippoli ジュセッペ ストリッポリ

(エディンバラ大学 文学研究科 アジア文化学科 博士後期課程)

ナポリ東洋大学で日本文学を専攻し修士課程修了。早稲田大学日本語教育研究センターと文学研究科へ留学し、現在は文部科学省国費外国人留学生として立教大学で研究する予定がある。主に明治時代から戦前までの科学小説 (SF) の発展とそれに関する雑誌の役割を研究している。

趙 小菁 Zhao Xiaojing

(北京外国語大学 北京日本学研究中心 博士後期課程)

中国四川省四川大学で学士学位を取得し、北京外国語大学北京日本学研究中心大学院を経て、現在は同センターで博士後期課程に在籍。修士課程では早稲田大学に訪問留学を行い、2021年6月から早稲田大学にてリサーチフェローとして留学を開始。研究分野は、平安物語文学。各学会で『うつほ物語』における「声」について、『うつほ物語』における中国故事の一考察』をテーマに口頭発表を行っている。

和氣 キャロライン 晃子 Wake Caroline Akiko

(北コロラド大学 世界言語学部 アシスタントプロフェッサー (日本語日本文化))

カリフォルニア大学バークレー校 (人類学 B.A.、アジア研究 B.A.)、スタンフォード大学大学院 (日本文学 M.A.、Ph.D.)。早稲田大学、國學院大學研究員留学。2020年8月より北コロラド大学 (University of Northern Colorado) 世界言語学部アシスタント・プロフェッサー (日本語日本文化)。研究分野は日本中世歌論および和歌。高澤秀次「石牟礼道子の作品世界—《受苦》から《共苦》へ」を *Ecocriticism in Japan* (Lexington Books 2017) に英訳掲載。

向 偉 Xiang Wei

(北京大学 外国語学院 日本語文化系 博士課程)

2017年10月から交換留学生として、京都大学へ一年間留学。研究分野は絵巻、狩野派など。主要論文は「日本近世絵画における反魂香物語の受容と変容」(陳明編『文学与図像』、北京大学出版社、2019年7月)、「源氏物語絵巻」の垣間見場面をめぐって——ナラトロジーの観点から」(北京大学東方文学研究中心編『東方文学研究集刊』第9期、社会科学文献出版社、2021年10月刊行予定)。

尹 美羅 Yun Mira

(大阪大学 大学院文学研究科 博士後期課程)

韓国・釜山大学を卒業。研究分野は日本近代文学。特に志賀直哉及びその周辺作家の作家・作品研究。主要論文は、「瀧井孝作「父」における志賀直哉受容—『和解』との比較を中心に—」(『日本研究論集』18号、2018年10月)、「志賀直哉「襖」の表現構造」(『語文』112号、2019年6月)、「広津和郎「悔」論—志賀直哉受容を中心に—」(『阪大近代文学研究』18号、2020年3月)。

草木 美智子 Kusaki Michiko

(法政大学 グローバル教育センター 教育講師)

大正大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程を修了。研究分野は近現代文学。特に短歌、国語教育、日本語教育。研究対象は、現代歌人 栗木京子。栗木短歌の特質を「家族」を介し鋭い視点で詠む「社会詠」であると考え、研究を展開している。

主要論文は「栗木京子短歌における「引用」の意図と展開—「俳句」の引用を中心として—」(『解釈』65巻7・8号、2019年8月)、「栗木京子短歌の初期作品考—京都大学在学時の歌の原点とそのゆくえ—」(『大正大学大学院研究論集』44号、2020年3月)、「栗木京子短歌「戦争詠」の源流とその特質」(『大正大学大学院研究論集』45号、2021年3月)。

劉 嘉榕 Liu Jiarong

(北京外国語大学 日本学研究センター 博士後期課程、河北農業大学 外国語学院日本語科 教師)

研究分野は日本古典文学。宝塚歌劇「源氏劇」をテーマに博士論文を執筆中。東アジア若手研究者フォーラム(2019中国・北京)において「『源氏物語』の劇化—宝塚歌劇団『源氏物語 あさきゆめみしII』を例に」を、また、中国日本語教学研究会2019年度学術大会及び日本学研究国際シンポジウム(2019中国・杭州)において「『源氏物語』の大衆化研究—劇化を例に—」を発表。

Radu Leca ラドゥ レカ

(ハイデルベルグ大学 東洋美術史研究所 研究員)

ルーマニア出身。御伽草子『蓬萊物語』の研究で金沢大学文学部国語国文学専攻卒業後、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院美術史研究科博士課程修了。博士論文は十七世紀日本における異国と異人に関する表象について。日本美術史並びに日本地図史が専門。共同編集 *Enduring Encounters: Maps of Japan from Leiden University Libraries* が今年 Brill より出版予定。現在ハイデルベルグ大学東洋美術史研究所で十七世紀における日本の写本と刊本文化の研究を行っている。

フィンク ウィクトル Fink Victor

テュービンゲン(Tübingen)大学、およびハイデルベルグ(Heidelberg)大学哲学部日本学専攻卒業、2020年修士号取得。同志社大学、上海交通大学へ留学。研究分野は古典文学、特に漢詩文、書道。主要論文は「和習用語の由来と受容」(『文論』ハイデルベルク大学編、2020年(ドイツ語))。2015年、「京都の書壇—現代書家インタビュー計画」(日比野実他六名)をブログにて公開。

ポスター発表

陳 羿秀 Chen Yihsiu

(台湾静宜 大学日本語学科 助理教授)

台湾東呉大学日本語学科卒業後、台湾大学日本語学科修士課程を経て、お茶の水女子大学人間創成科学研究科博士前期課程・後期課程に進学。2017年3月に「山雲子山雲子の仮名草子について—西鶴へ至る文学として」により博士号取得。研究分野は近世文学。特に現在は近世前期文学における『列女伝』の受容について。主要論文は「山雲子の著作について」(『近世文藝』99号、2014年)など。

賴 衍宏 Lai Yenhung

(静宜大学 日本語文学系 副教授)

東京大学大学院総合文化研究科で2008年「日本語時代の台湾短歌——結社を中心にした資料研究」で博士号取得。研究分野は比較文学。主著、主要論文は『日本文学管見——和習・短歌・作品論』(新北：尚昂文化、2015年)、「法隆寺薬師仏光背銘新論」(『日本研究』58集、2018年)、「台湾における皇民化運動——政策の形成と短歌の広がり」(『跨境／日本語文学研究』9号、2019年)など。

神谷 光信 Kamiya Mitsunobu

(関東学院大学 キリスト教と文化研究所 客員研究員)

日本近代文学専攻。二松學舎大学、慶應義塾大学各文学部卒業。国際日本文化研究センター特別共同利用研究員を経て、放送大学大学院文化科学研究科人文学専攻博士後期課程修了。「遠藤周作とフランツ・ファノン」で放送大学にて修士(学術)。「ポストコロニアル的視座より見た遠藤周作文学の研究」で放送大学にて博士(学術)。現在はフランス文学者の文芸評論家村松剛を研究。主要論文は「村松剛と湾岸戦争：村松の中東国際政治理解に関する比較考察」(『キリスト教と文化』16号、2018年3月)、「村松剛とイスラエル」(『キリスト教と文化』17号、2019年3月)、「村松剛とアフリカ：アルジェリアと南アフリカを中心に」(『キリスト教と文化』18号、2020年3月)。

マクドゥエル 久美子 McDowell Kumiko

(オレゴン大学 東アジア言語文学学部 博士課程)

オレゴン大学図書館で資料のメタデータを扱う仕事をしながら、大学院で日本文化を研究。研究テーマは、日本の千社札。修士論文では、大正期の千社札の復活および発展について、時代背景を踏まえながら、メディアとしての観点から分析した。博士論文では、江戸の庶民文化ネットワークにおける千社札と他の庶民文化の関係を分析する予定。

周 鈺 Zhou Yu

(国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科 アーツ・サイエンス専攻 博士後期課程)

南京林業大学卒業、南京師範大学修士号取得。研究分野は日本文学。主に村上春樹の作品の中国語訳やエロティシズム研究。主要論文は「从『破戒』解读友情及其对主人公“破戒”的影响」(日本語訳：『破戒』から見る友情及び友情が主人公の破戒に与えた影響)(『才智』

2016年2月)、周鈺・池建新『『伊豆の踊子』から見る『私』の差別意識—踊子の薫との交際を中心に—』(『日本学研究』9号、2016年12月)、周鈺・黄春婷『『舞姫』中爱丽丝性格の両面性及对悲剧性结局的影响』(『舞姫』から見るエリスの性格の両面性とそれが破局に与えた影響) (『山西青年』、2021年1月)。テキスト編集の業績として池建新・張薇・陳道競・周鈺『中日交流標準日本語同步辅导与强化训练』(日本語訳: 中日交流標準日本語同步指導と強化訓練) 初級上、下二冊、第1版(东南大学出版社、2016年7月)がある。

Csendom Andrea チェンドム アンドレア

(東京外国語大学 オープンアカデミー 講師)

2015年に一橋大学大学院社会学研究科の修士課程を修了し、2020年12月にエトヴェシュ・ローランド大学大学院言語学研究科において博士号の学位審査を最優秀成績で修了した。博士論文の題目は『寛政期の黄表紙の思想史的な位置付けの分析とその翻訳方法論の検討—研究史の追究への史料分析』である。

Muhammad Marwa ムハammad マルワ

(アインシャムス大学 外国語学部 日本語学科 補助教員)

専門は近現代日本文学。2011年にエジプトのアインシャムス大学外国語学部日本語学科を卒業。2010年に関西国際センターで一ヶ月半の学生向けの研修に参加。2018年にカイロ大学文学部で修士課程修了。修士論文のテーマは「遠藤周作文学におけるキリスト教観—『沈黙』を中心に」。

第44回国際日本文学研究集会

開催日：令和3年(2021年)5月8日(土)～5月9日(日)

会場：オンライン (YouTube ライブ配信)

主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

【プログラム一覧】

5月8日(土)

13:00～ 開会挨拶 渡部 泰明 (国文学研究資料館 館長)

総合司会 海野 圭介 (国文学研究資料館 教授)

研究発表

第1セッション 近世I 司会 勝又 基 (明星大学 人文学部 教授)

13:10～13:40 大成聖安尼の孤独—近世比丘尼御所における漢詩の研究
Horikawa Nobuko (堀川 暢子/ワシントン大学 アジア言語文学学部日本文学
博士課程)

13:45～14:15 和刻本仏書に見る漢籍受容—『大明仁孝皇后勸善書』の展開とその翻訳に注目して—
木村 迪子 (キムラ ミチコ/日本学術振興会 特別研究員 (PD))

14:20～14:50 浅井了意の産死観
金 慧珍 (Kim Haejin キム ヘジン/東京大学 大学院人文社会系研究科
日本文化研究専攻 博士課程)

休憩 20分 (14:50～15:10)

第2セッション 近代I 司会 齋藤 理生 (大阪大学 大学院文学研究科 教授)

15:10～15:40 御歌所と歌会始の政治的な役割
Carbune Maria (カルブネ マリア/ハイデルベルク大学 日本学研究所 博士後期課程)

15:45～16:15 平林たい子『施療室にて』—プロレタリア文学と産児制限との関わりを中心に
Michielsen Edwin (ミヒールセン エドウィン/トロント大学 東アジア研究科
博士後期課程)

16:20～16:50 堀内新泉の宇宙探検—科学小説の起源が語るアンチ・ミメーシス
Strippoli Giuseppe (ストリッポリ ジュセッペ/エディンバラ大学 文学研究科
アジア文化学科 博士後期課程)

5月9日(日) 総合司会 齋藤 真麻理(国文学研究資料館 教授)

第3セッション 中古中世 司会 新美 哲彦(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

10:30~11:00 『うつほ物語』における昭君説話に関する一考察
—引用のあり方とその独創性について—
趙 小菁(Zhao Xiaojing チョウ ショウセイ/北京外国語大学
北京日本学研究センター 博士後期課程)

11:05~11:35 京極派歌論における「悟り」の意味
Wake Caroline Akiko(和氣 キャロライン 晃子/北コロラド大学 世界言語学部
アシスタントプロフェッサー(日本語日本文化))

11:40~12:10 スペンサー本『咸陽宮絵巻』の成立をめぐる—『張良絵巻』との比較を中心に
向 偉(Xiang Wei コウ イ/北京大学 外国語学院 日本語文化系 博士課程)

休憩 60分(12:10~13:10)

第4セッション 近代Ⅱ 司会 中村 ともえ(静岡大学 教育学部 准教授)

13:10~13:40 志賀直哉「邦子」の方法—同時代言説を視座として
尹 美羅(Yun Mira ユン ミラ/大阪大学 大学院文学研究科 博士後期課程)

13:45~14:15 栗木京子短歌における「社会詠」と国際社会—2020年『塔』詠出歌を手がかりとして
—
草木 美智子(クサキ ミチコ/法政大学 グローバル教育センター 教育講師)

14:20~14:50 宝塚歌劇「源氏劇」の原点を辿る—『源氏物語 賢木の巻』と源氏能を結び付けて—
劉 嘉瑤(Liu Jiarong リュウ カヨウ/北京外国語大学 日本学研究センター
博士後期課程、河北農業大学 外国語学院日本語科 教師)

休憩 20分(14:50~15:10)

第5セッション 近世Ⅱ 司会 平野多恵(成蹊大学文学部 教授)

15:10~15:40 絵巻と西鶴：近世写本文化の一例
Leca Radu(レカ ラドゥ/ハイデルベルグ大学 東洋美術史研究所 研究員)

15:45~16:15 「和習」言説と江戸中期における詩風の革新
Fink Victor(フィンク ウィクトル)

16:15~ 閉会挨拶 河野 貴美子(早稲田大学 文学学術院 教授)

ポスター発表

- ・村松剛と共産主義：希望から幻滅へ
神谷 光信（カミヤ ミツノブ／関東学院大学 キリスト教と文化研究所 客員研究員）
- ・『騎士団長殺し』から見るエロティシズム
周 鈺（Zhou Yu シュウ ギョク／国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科
アーツ・サイエンス専攻 博士後期課程）
- ・恋川春町作『鸚鵡返文武二道』の解釈へのノート
Csendom Andrea（チェンドム アンドレア／東京外国語大学 オープンアカデミー 講師）
- ・『仮名列女伝』に見られる日本古典の再創作
陳 羿秀（Chen Yihsiu チン イシュウ／(台湾)静宜大学 日本語学科 助理教授）
- ・「再暗黒の東京」における光線画技法の適用
マクドゥエル 久美子（McDowell Kumiko／オレゴン大学 東アジア言語文学学部 博士課程）
- ・「沈黙」…事実とフィクションの混合
Muhammad Marwa（ムハammad マルワ／アインシャムス大学 外国語学部日本語学科 補助教員）
- ・山上碑初考
頼 衍宏（Lai Yenhung ライ エンコウ／(台湾)静宜大学 副教授）